

## 【経営指標を示す経営類型(案)】

### 基本的考え方

- 高齢者の離農や後継者不足、配合飼料価格の上昇、国際環境の変化等、我が国の酪農・肉用牛生産をめぐる情勢が大きく変化している中、生産基盤の弱体化が懸念されているところ。
- それぞれの経営体においては、生産コストの削減や販売額の増加等に資する取組を効率的に組み合わせることにより、収益性の高い畜産経営へ転換していくことが喫緊の課題である。
- このため、既の実現されている先進事例を参考に、収益性を向上させる様々な取組を組み入れた酪農及び肉用牛生産の経営類型を設定し、それぞれの類型ごとに経営指標を示すこととする。
- これにより、10年後を目途として、競争力の高い畜産経営モデルを描く。

### 収益性向上のための取組

- 【生産コストの削減・安定化】 飼養規模の拡大、国産飼料の生産・利用拡大、放牧の活用、省力化機械の導入、外部化支援組織の活用、肥育期間の短縮、性判別技術や受精卵移植技術の活用 等
- 【販売額の増加】 飼養規模の拡大、飼養管理の改善、6次産業化 等

### 指標の項目

- 経営概要 : 経営形態、飼養頭数、飼養管理・飼料生産の外部化状況 等
- 生産性指標 : 1頭当たり乳量、出荷月齢、出荷時体重、飼料自給率、生産コスト、所得、労働時間 等



フリーストール



搾乳ロボット



哺乳ロボット



放牧



コントラクター



国産飼料



畜産物の  
付加価値向上

# ○ 経営類型の考え方(酪農経営)

- 酪農経営については、生産コストの約5割を占める飼料費が増加傾向で推移するとともに、労働時間については、搾乳牛1頭当たりでは減少しているものの、規模拡大に伴い、経営全体では上昇傾向にある。
- このため、土地条件の制約の大小に分けた上で、以下の取組等を組み入れた5つの経営類型を設定する。
  - ・コントラクター等を活用した飼料生産・調製の外部化、搾乳ロボット等の機械導入による省力化・効率化と、これを通じた大規模化
  - ・草地の生産性向上、放牧の活用、飼料用米等の国産飼料の生産・利用拡大による、飼料の安定確保・コスト削減
  - ・自ら生産した生乳のアイスクリーム等への加工・直販(6次産業化)による販売額の増加 等

## 土地条件の制約が小さい地域(主に北海道)

放牧の活用による飼料費の削減や省力化を図りつつ、アイスクリーム・チーズ等の製造・直販により販売額の増加を図る家族労働主体の経営

搾乳ロボット等の活用と飼料生産・調製の外部化により、家族労働時間を抑制しながらも規模拡大を図るとともに、性判別技術や受精卵移植技術の活用により、効率的な後継牛確保と収入増加に資する和子牛生産に取り組む家族労働主体の経営

複数戸による協業経営の下、分業化や搾乳ロボットその他機械化等により省力化・効率化しつつ、規模拡大による販売額の増加を図る大規模法人経営

## 土地条件の制約が大きい地域(主に都府県)

飼料生産・調製の外部化等により、家族労働時間を抑制しながらも規模拡大を図るとともに、地域内での耕畜連携の下、飼料用米・稲WCS等の利用、堆肥交換により、持続性を確保する家族労働主体の経営

水田の集積・活用により飼料基盤を強化し、飼料費の削減を図るとともに、ヨーグルト等の製造・直販により販売額の増加を図る大規模法人経営

# ○ 経営類型の考え方(肉用牛経営)

- 肉用牛経営については、繁殖経営は依然として高齢・小規模層の割合が高く、これらの経営体の経営離脱によるもと畜価格上昇や、生産コストの約4～6割を占める飼料費の増加傾向等により、肥育経営も収益性が悪化している。
- このため、繁殖経営、肥育(一貫)経営について、規模や畜種等の違いにより、以下の取組を組み入れた、それぞれ3つの経営類型を設定する。
  - ・キャトル・ブリーディング・ステーション等を活用した外部化や、哺乳ロボット等の機械導入による省力化・効率化と、これを通じた大規模化
  - ・草地の生産性向上、放牧の活用、飼料用米等の国産飼料の生産・利用拡大による、飼料の安定確保・コスト削減
  - ・飼養管理の改善、繁殖・肥育一貫経営等による生産性の向上
  - ・特色ある牛肉を生産し、ブランド化を行うことによる生産物の付加価値向上 等

## 肉専用種繁殖経営

繁殖雌牛の放牧等により飼料費の削減や省力化を図りつつ、家族経営に適した規模での効率的な経営

キャトル・ブリーディング・ステーション等の活用により、省力化、規模拡大を図る家族労働主体の経営

発情発見装置、哺乳ロボット等省力化機械やコントラクターの活用による効率的な多頭飼育を図る大規模法人経営

## 交雑種・乳用種育成・肥育一貫経営

肥育牛の出荷月齢早期化による飼料費等の削減と、消費者ニーズの多様化に対応した地域ブランド化、交雑種飼養割合の増加により収益性を高めた大規模法人経営

## 肉専用種肥育経営

飼料用米等地域内資源を活用し、快適な飼養環境の確保や増体能力の優れたもと畜導入により肉質の向上と枝肉重量の増大を図り、生産性が高く、規模拡大を進めた家族労働主体の経営

## 肉専用種繁殖・肥育一貫経営

繁殖雌牛の放牧、エコフィード等国産飼料の活用、肥育牛の出荷月齢早期化、牛肉の直販等の取組により、生産コストの削減と販売額の増加を図る大規模法人経営

# (参考) 現行酪肉近における基本的指標

## 酪農経営

	1	2	3	4	5	6	7
土地条件	土地条件の制約が小さい地域 (主として北海道)			土地条件の制約が大きい地域 (主として都府県)			全国
	牧草地主体	牧草地主体	畑主体	寒冷地・中山間	暖地	暖地	
経営形態	家族	家族	法人	家族	家族	法人	家族 (チーズ加工・販売)
経産牛頭数	60頭	80頭	250頭	40頭	80頭	200頭	40頭
飼養方式	繋ぎ パイプライン	繋ぎ パイプライン	フリーストール・パーラー ほ乳ロボット	繋ぎ パイプライン	繋ぎ パイプライン	フリーストール パーラー	繋ぎ パイプライン
作業の外部化	ヘルパー	ヘルパー	公共牧場	ヘルパー	公共牧場 ヘルパー	公共牧場	ヘルパー
給与方式	分離給与	TMR・エコフィード <sup>*</sup>	TMR・エコフィード <sup>*</sup>	分離給与 稲WCS	TMR・エコフィード <sup>*</sup> 稲WCS	TMR・エコフィード <sup>*</sup> 稲WCS	分離給与
飼料作物の作付体系	チモシー主体	混播主体	混播・トウモロコシ	混播・トウモロコシ	トウモロコシ・イタリアン	トウモロコシ・イタリアン	混播・トウモロコシ
放牧利用	48ha	—	—	—	—	—	3ha
飼料生産の 外部化	—	コントラクター TMRセンター	—	コントラクター	コントラクター TMRセンター	—	コントラクター
飼料作物作付面積	64ha	63ha	180ha	15ha	12ha	27ha	18ha
乳量	8,100kg	8,500kg	9,200kg	8,400kg	8,600kg	9,300kg	8,200kg
更新年次	5.0	4.5	4.0	4.2	4.0	4.0	5.0
10a当たり生産量 (飼料作物)	チモシー 4,600kg	混播4,100kg	混播 4,100kg トウモロコシ 6,000kg	混播 4,300kg トウモロコシ 5,400kg	トウモロコシ5,700kg イタリアン 6,300kg	トウモロコシ 5,700kg イタリアン 6,300kg	混播4,200kg トウモロコシ 5,700kg
経営内自給率	75%	70%	70%	45%	40%	35%	55%
粗飼料給与率	75%	70%	70%	50%	50%	50%	60%

# 肉用牛経営(繁殖)

	1	2	3	4	5
立地条件	土地条件の制約が小さい地域 (主として北海道)		土地条件の制約が大きい地域 (主として都府県)		
土地条件	畑又は水田	畑主体	水田	水田	畑又は水田
経営形態	家族・複合	家族・専業	家族・複合	家族・複合	家族・専業
繁殖雌牛頭数	50頭	100頭	10頭	30頭	80頭
飼養方式	牛房群飼 連動スタンション	牛房群飼 連動スタンション ほ乳ロボット	繋ぎ CBS (CS)	牛房群飼 連動スタンション	牛房群飼 連動スタンション 早期離乳
作業の外部化	—	—	CBS (CS)	—	—
給与方式	分離給与	分離給与	分離給与	分離給与	分離給与・稲WCS
放牧方式	公共牧場	—	水田放牧(2ha)	水田放牧(5ha)	—
飼料作物の作付体系	混播主体	混播主体	混播主体	混播・トウモロコシ	イタリアン・スーダン
飼料生産の外部化	—	コントラクター	—	—	コントラクター
飼料作物作付面積	18ha	28ha	3ha	12ha	23ha
分娩間隔	12.5ヶ月	12ヶ月	12ヶ月	12.5ヶ月	12ヶ月
初産月齢	23.5ヶ月	23.5ヶ月	23.5ヶ月	23.5ヶ月	23.5ヶ月
出荷月齢	8ヶ月	8ヶ月	8ヶ月	8ヶ月	8ヶ月
出荷時体重	260kg	260kg	260kg	260kg	260kg
10a当たり生産量 (飼料作物)	混播 4,100kg	混播 4,100kg	混播 4,300kg	混播 4,300kg トウモロコシ5,400kg	イタリアン 7,200kg スーダン 7,500kg
経営内飼料自給率	70%	60%	60%	70%	60%
粗飼料給与率	80%	80%	80%	80%	80%

# 肉用牛経営(肥育・一貫)

	1	2	3
立地条件	土地条件の制約が大きい地域(主として都府県)		土地条件の制約が小さい地域(主として北海道)
立地条件	畑又は水田	畑又は水田	畑
経営形態	法人	家族	法人
肥育牛・育成牛頭数	肉専用種繁殖・肥育一貫 肥育牛 100頭 繁殖牛 50頭	肉専用種肥育 肥育牛 150頭	乳用種・交雑種育成・肥育一貫 肥育牛 400頭〔乳用種320頭・交雑種80頭〕 育成牛 170頭(乳用種140頭・交雑種30頭)
飼養方式	牛房群飼、連動スタンション	牛房群飼	牛房群飼
給与方式	分離給与、稲WCS	分離給与、稲WCS	TMR
飼料作物の作付体系	トウモロコシ・イタリアン、稲WCS	稲WCS	トウモロコシ、混播牧草
飼料生産の外部化	コントラクター	コントラクター	—
飼料作物作付面積	9ha	5ha	49ha
肥育開始時月齢	6ヶ月齢	8ヶ月齢	乳用種6ヶ月齢、交雑種7ヶ月齢
分娩間隔	12.5ヶ月	—	—
初産月齢	23.5ヶ月	—	—
出荷時月齢	25ヶ月齢程度	27ヶ月齢程度	乳用種20ヶ月齢程度、交雑種23ヶ月齢程度
肥育期間	19ヶ月齢程度	19ヶ月齢程度	乳用種14ヶ月齢程度、交雑種16ヶ月齢程度
出荷時体重	710kg以上	710kg以上	乳用種800kg以上、交雑種780kg以上
1日当たり増体重	0.82以上	0.82以上	乳用種1.25以上、交雑種1.09以上
肉質等級	A3-4	A3-4	B2、B3
経営内飼料自給率	25%	10%	25%
10a当たり生産量 (飼料作物)	トウモロコシ 5,400kg イタリアン 6,300kg 稲WCS 3,500kg	稲WCS 3,500kg	トウモロコシ 6,000kg 混播牧草 4,100kg
粗飼料給与率	30%	20%	30%